
銀杏の木の下で

悲劇のM

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

銀杏の木の下で

【Zマーク】

Z0466F

【作者名】

悲劇のM

【あらすじ】

ツンデレ以外も描けるんだーーーっ！

富士岡高校の体育館の裏には、大きな銀杏の木がある。開校記念に植えられた木であり、数十年の樹齢を持つ。春には芳しい香りで鼻を飽きさせず、秋には美しく、どこか物悲しく葉を散らせる。皆に慣れ親しまれているその木は、既に学校の一部となっていた。

そんな銀杏の木には、一つのジンクスがあった。木の下で行われた告白がうまくいくと、一人は永遠に結ばれる、というものである。そして俺は今宵、この木の下に呼び出された。靴箱にあつたピンクの便箋に包まれた手紙に、ここに来るよう書いてあつた。震える手で書いたのだろうか、綺麗な字が所々歪んでいた。恐らく、いや、絶対告白だろう。

正直、こんなふざけたジンクスを最初に言い出した奴をぶつとばしたくてしようがない。何が永遠に結ばれる、だ。そんな馬鹿な話があるわけない。第一、俺は恋愛ことなど興味無い。愛し合つて何になるというのだ。

だが、勇気を出して手紙を俺に渡してくれた。その勇気に応えず来ないというのも善い行いではない。嫌々ながらもここに足を運んだ。

言つまでもないが、誰がどう巧い言葉を繰ろうが、OKを出すつもりは無い。手紙を出してくれた人にはすまないが、俺は興味が無いのだ。

数分待ち、ふいに欠伸が出た。と、その時だった。向こうからこちらに一人の生徒が駆け寄ってきた。手紙を出した本人だろう。その瞳は期待と不安が入り混じった色をしていた。俺の前に立つと、荒ぶる息を整えながら俺の目を見た。

「あの、待たせちゃいましたか？」

「いや、全然。どうせ暇だし」

俺はそっけなく返す。そいつは恥ずかしそうに身をくねらせながら

ら、歯に震える唇で言葉を紡いだ。

「えっと、今日呼び出したのは大事な話があるからなんですね……」
「よいよ本題に入るらしい。だが、俺の答えは既に決まっている。
NOだ。

「わ、私と付き合つてください」

そして、言い終わらないうちに俺はその場から逃げた。こんなことするのは悪いが、やっぱり場の空気に耐えられなかつた。振り返るが、そいつは追つてこなかつた。ただ呆然と、そこに立ち尽くすのが義務であるかのように、そこに立ち尽くしていた。

俺は自分を責めていたが、ふと思う。悪いのは俺じゃない、と。男子校なのに変なことを言い出した奴が全面的に悪いのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0466f/>

銀杏の木の下で

2011年1月22日02時26分発行